よこはま地球村

横浜市国際学生会館ニュース

学生会館のマスコット ラブアースベア

2023 No.116 夏 summer

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、公益財団法人 横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

館長の着任挨拶　新井達夫（あらい たつお）

皆さんはじめまして、国際学生会館館長の新井です。4月1日に村本前館長の後任としてまいりました。

今までは医療関係、大学教育関係などに多く従事してまいりました。住まいは鶴見川の上流の方角に居住しています。鶴見区には母親が鶴見区内の学校を卒業し、とても鶴見の雰囲気が好きだということでよく遊びに来ていました。職場として鶴見区に勤務するのは初めてですが、着任の日に鶴見駅に降り鶴見駅ロータリー前に立つと活気がありよい街だなと改めて感じました。

着任して間もなく、新入居者オリエンテーションとＲＡ（レジデントアシスタント　留学生をサポートする学生）ミーティングに出席しました。遠く祖国を離れて学生会館で勉学に励む姿と、入居者間の親睦を積極的に図ろうとする若者たちをとても頼もしく感じました。鶴見・横浜・日本で過ごした時間がかけがえのないものとなるよう、会館のスタッフ全員で支援に努めるとともに、地域との交流を通じて、多文化共生のまちづくりを進めてまいります。

どうぞ皆さまよろしくお願いいたします。

留学生による文化講座

～韓国の若者は今～

留学生が日本語で母国を紹介します。

- 日時･会場:7/1(土)13:30～15:00　国際学生会館ホール(対面式)
- 参 加 費:600円(中高生半額。韓国の茶菓つき)
- 申 込 み:6/11(日)9:00からメールで先着20名受付開始
- Email:yish@yoke.or.jp

ホームビジットファミリー 大募集！

３面でご紹介したホームビジットの受け入れをしてくださるボランティアのファミリーを募集しています。留学生をご自宅に招いて、楽しく一緒に国際交流しませんか？

詳しくは学生会館ホームページでご覧ください。

学生会館からのお知らせ

◆語学講座　※申込みは何回でも可能です。

1．個人語学サロン(オンライン形式･45分間･１回1,000円)

～留学生と外国語で１対１で会話を楽しめるサロンです～

- **日　程**:6月１日(木)～9月10日(日)10:00～15:00
- **曜　日**:毎日
- **言　語**:英語、中国語、スペイン語、韓国語、フランス語

※HP上のスケジュール表で確認の上、受講希望日の2週間前までにメールでお知らせ下さい。

2．グループ英会話サロン(対面式･1時間･1回500円)

～１グループに3～4人に分かれ、会話を楽しみます～

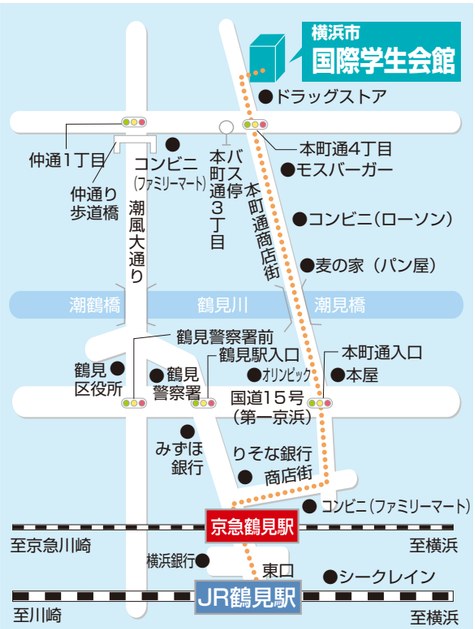
①英　語:7月23日(日)14:00～15:00
②中国語:7月29日(土)11:00～12:00
③韓国語:7月29日(土)14:00～15:00

3．語学教室(対面式･各回1時間･全３回1,500円)

～留学生の出身国の文字や言葉を3回連続で学ぶ教室です(初級者向け)～

①モンゴル語:8月2日(水)、9日(水)と16日(水)
②ウズベク語:8月7日(月)、14日(月)と21日(月)
③韓国語:8月16日(水)、23日(水)と30日(水)
④ウルドゥ語:8月24日(水)、25日(水)と26日(水)
⑤中国語:9月4日(月)、5日(火)と6日(水)

申込方法：メール (yish@yoke.or.jp)
氏名、参加プログラム名、日時、連絡先をお知らせください。
※詳細はHPで確認下さい。https://yish-yoke.com/



交通案内　JR京浜東北線・京浜急行線「鶴見駅」より徒歩15分
JR鶴見駅東口より横浜市営バス15系統(4番乗り場)に乗車5分、本町通3丁目にて下車、徒歩1分

開館時間　火曜日～土曜日　9:00～21:00
日曜日、月曜日、祝日　9:00～17:00
休館日 毎月第4月曜日、年末年始

2023年度がスタートしました！

2023年4月、新入居者56名を迎え28ヶ国、94名の学生達の共同生活が始まりました。４月22日（土）に歓迎会を開催し、昨年から入居している学生と新入居者が互いの顔や名前を覚えてもらいました。潮田西部地区連合の中村会長よりごあいさつをいただき、その後職員やRAの紹介を行い、留学生会で準備した食事を食べながら、自己紹介やゲーム等をして、交流を深めました。

◆新入居者３名に①留学先に日本を選んだ理由、②学生会館に住んでいる間にやってみたいこと、　③好きな日本食を聞いてみました。

ピョーさん（ミャンマー）・アーツカレッジヨコハマ

ピョーさん

①両親、祖母２人と一緒に大家族で生活していたため、身の回りのこと全てをやってもらっていましたが、高校卒業後、自立したいと思い、母の勧めで日本への留学を決めました。

②お祭りのお神輿を担いでみたいです。日本語検定試験２級を７月に挑戦します。また、できるだけたくさんの国の友達を作って、英語で話もしたいです。

③お寿司と唐揚げです。特にマグロの寿司は大好きです。

ラミレスさん（メキシコ）・横浜市立大学交換留学生

ラミレスさん

①子どもの頃、日本を旅行した叔母がたくさんお土産を持ち帰り写真も見せてもらいました。それ以来日本に憧れ、いつか日本に行きたいと思っていました。大学の交換留学制度で夢が叶いました。

②帰国前に両親と日本国内を旅行する予定です。その時に案内ができるよう日本語をうまくなりたいです。

③日本のスイーツです！先日大福を食べて、とても気にいりました。できる限りいろいろな和菓子を試してみたいと思います。

ラシィドさん（ウズベキスタン）・横浜国立大学大学院生

ラシィドさん

①ウズベキスタンは内陸国なので、どうしても海が見たくて横浜にある大学を選びました。来日してすぐ横浜港に行きました。すばらしい景観です！

②妻と子ども２人と一緒に暮らしており、ホームビジットと釣りを体験してみたいです。ウズベキスタン国立銀行に勤務していますが、日本滞在中に研究論文を学術誌に発表したいと思っています。

③お寿司と鰻丼です。納豆は最初食べられませんでしたが、今や味噌汁と納豆は私にとって究極のファストフードです。

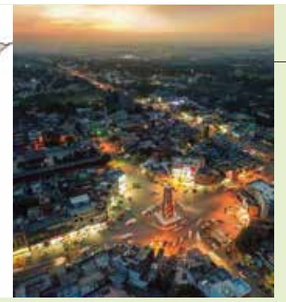
歓迎会

シリーズ 母国の風景
（パキスタン･シアールコート）

私の故郷はシアールコートで、パキスタンの中でもっとも人口が多いパンジャーブ州の都市です。人口は約200万人で、13番目に人口の多い大都市です。使用言語はパンジャーブ語です。

シアールコートは「シアの砦」を意味し、紀元前にアレクサンダー大王が広げたヘレニズムの東端であり、紀元２世紀にサリバハン王が作った砦にちなんで名付けられました。冬は寒く０度まで下がり、夏は高温多湿で５～６月が最も暑くなります。一人あたりの収入はパキスタンの中で最も高く、工業都市として知られています。特にサッカーボールの製造は世界の生産量の 70%で、過去 3 回の FIFA ワールドカップで公式球に使われています。

私は2012年に兄を訪ねるために初めて日本に来ました。その時、日本の研究環境とインフラ整備に刺激を受け、高等教育を受けるために2019 年に来日しました。現在、土木工学を専門に横浜国立大学大学院博士課程で研究しています。土木技術は持続可能な発展のためのインフラ整備と維持に責任を持つことだと考え、私もより良い社会を築くために、技術を通じて貢献したいと思っています。



私は妻、息子と一緒に会館の家族室に住んでいます。

（アクマル　アドナン　横浜国立大学大学院）

横浜市国際学生会館ニュース
よこはま地球村
2023年　夏号
2023年6月1日発行 第116号

■発行：横浜市国際学生会館（YISH）
〒230-0048　横浜市鶴見区本町通4-171-23
Tel.045-507-0121　Fax.045-507-2441
Email：yish@yoke.or.jp
ホームページ：https://yish-yoke.com
■印刷／デザイン：ツルミ印刷株式会社

「地域との連携を深める事業」
～多文化共生・グローバル化を体験する留学生たち～

横浜市国際学生会館では地域の学校や地区センターで実施する事業に共催や協力することで、留学生が地域の青少年や住民と直接言葉を交わし、交流できる機会を増やすことを心がけています。

2月25日(土)に潮田地区センター共催講座「ヴェネツィアの留学生講演会」では、横浜市立大学の交換留学生２名が、近年の気候変動の影響への対策や車両が入れないヴェネツィアの街中での行動などヴェネツィアの魅力について紹介し、質疑応答を通して参加者と交流をしていました。

また、3月4日(土)に寺尾地区センター共催講座「留学生に学ぶカナダの魅力・多文化共生」では、横浜市立大学の交換留学生が、カナダの移民受入れ政策と現状を説明し、日本の多文化共生社会の実現に向けた政策比較を試みました。

寺尾地区センター共催講座

「YSFH-FIRST2023」への参加

（横浜国立大学大学院 プラテセナ モハメド エドガー）

3月18日(土)に私は横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校(YSFH)で開催された「英語による研究発表会」に他の留学生21名と参加しました。会場では、中・高校生約150名と英語での質疑応答を通じた交流が図られました。

私は、学生会館の留学生が投票で選んだ優秀発表者に「YISH賞」を授与するという栄誉ある役割を担いました。高校生に匹敵する内容を発表した中学生もおり、自分の中学・高校時代を思い出し、生徒達の意識とレベルの高さに驚きました。大変刺激を受け、充実した時間を過ごせたことに感謝します。

会館の留学生と学校の担当者（筆者は前列右２番目）

「多文化共生社会に向けた仕組みづくり」～インターンシップを通じて考えたこと～

西坂 里衣那　明治学院大学（YOKE インターン生）

私は2023年２月上旬～３月中旬、横浜市国際交流協会の春期インターンシップに参加し、学生会館が実施する「留学生OBOGの就職体験談」、「ボランティア研修会」、潮田中学校での「多文化ディ」での留学生の文化紹介講座、潮田地区センターとの共催講座の運営に関わらせていただきました。

この経験から、多文化共生について異文化理解や社会参画の重要性といったことだけでなく、『その人らしく生きられる』社会には仕掛けが必要だということに気づきました。つまり、自国の文化や伝統、言語といったアイデンティティーを支える要素を発信、表現できることでその人が生き生きと輝ける機会を周囲が作る配慮が必要だと思いました。将来、学校教員になるのが夢ですが多文化共生ができる教室運営をめざし、ここでの体験を活かしていきたいと思います。

潮田地区センター共催講座
西坂さん（右）と留学生（左）

なるほど！おもしろい！ 世界のことわざ
～トーゴ共和国～

「シロアリ一匹の食べる量は少なくても、集団になれば家屋も他の木造建築物も壊すほど甚大な被害をもたらします。」

私はトーゴ共和国北部のダパオンという地域で生まれました。私の部族の言語はモアバ語で、日常生活でよく使われることわざの一つを紹介します。

このことわざは、一匹では大した被害は出ないが、集団だと大きな被害になることがあることを示しています。一方で困難に直面した場合に集団で協力すると団結の力で困難を乗り越えられることもできるということを意味しているとも言われています。

私の村では共同作業が非常に多く、家を作る時、泥をこねて土壁を作りますが、村の女性達が一緒に協力し合います。助け合って大変なことを乗り越えるのです。まさにこの言葉は私達の文化を象徴していると言えます。

（横浜国立大学大学院
マリキ　ジャンジェーム）

ホームビジットファミリー募集中！

みなさんも留学生のホームビジット受け入れをしてみませんか？

学生会館では、夏と春、留学生たちの長期休暇の時期にあわせて、ホームビジットを実施しています。コロナ禍で約３年間ストップしていましたが、ホームビジットボランティアのみなさんのご協力により、今春から再開することができ、数名の留学生たちが日本の家庭を楽しんできました。今年度も、実施していく予定です。関心のある方は、ぜひホームビジットファミリーに登録してみませんか？　（登録方法等は４面をご覧ください）

ホームビジットの流れ

受入家庭：ホームビジットボランティアに登録

登録は通年受付　　現在大募集中!

留学生・研究者：ホームビジットの時期に申込

↓ 夏は7～9月、春は2～3月に実施

学生会館事務局がマッチング

↓ 日程や内容によってマッチング

顔合わせ

↓ 訪問日時や待ち合わせ場所、内容を事務局と一緒に学生会館で会って打ち合わせ

ホームビジット実施

当日は留学生が自分でお宅や待ち合わせ場所へ向かいます

“YISH Home Visit !” 体験談

この春、ホームビジットを経験した日本人家庭のみなさんや留学生の声をお届けします。

↑会話は日本語で。青森弁、若者スラングも飛び交います

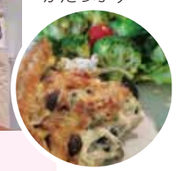
体験談①　３月、アメリカ出身のトニー君にお越しいただきました。印象深かったのは、同世代の息子と、オンラインゲームを楽しんだり、おすすめスポット情報を交換しあったりと、兄弟のように仲良く過ごしていたこと。彼のフレンドリーな性格と流暢な日本語に家族一同魅了された一日でした。また遊びに来てください！

／ホームビジットボランティア 林

お天気にも恵まれた→
ホームビジットデーでした

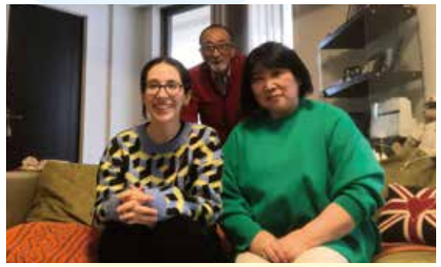
←今春は、ネパールとマレーシアからの留学生が遊びにきました

↓粉から作ったキッシュはほうれん草ときのこがたっぷり



体験談②　私は女子留学生のホームビジットを 2 回経験させて頂きました。お菓子作りが好きなので、1 回目はチョコレートケーキ、2 回目は、粉からパイ生地を作りキッシュとミックスベリーパイを作りました。留学生との会話は日本人同士でもあり得るような日常会話で、言葉・文化が違っても共通する部分は沢山あると思いました。お菓子作りをしてみたい方、ぜひ Maggie 宅へお越しください。

／ホームビジットボランティア 大和田昌子(Maggie)



↑スペインと大学の話題で大盛り上がり

体験談③　私は 3 月にホームビジットをし、みなさんにもおすすめします。日本人は家でどんな料理を食べるのか、どんな家に住んでいるのかなど、ホームビジットで日本の家庭での生活を体験することができると思います。また日本語を学び、日本の文化や社会について知るいい機会にもなります！　ですので是非ホームビジットをやってみてください。

／横浜国立大学大学院 フェルナンデス バラカ アナ